

石川県立美術館だより

平成19年4月1日発行 第282号

特集

天神画像と文房具 美術にみる文学の世界

4月1日(日)～4月18日(水) 会期中無休



帰去来図屏風 狩野友益 -美術にみる文学の世界-

目次

天神画像と文房具	2	平成18年度新収蔵品一覧	5
美術にみる文学の世界	2	各種お知らせ、行事案内	6
コレクション展示室主な展示作品	3	ミュージアムレポート	7
企画展Topic	3	企画展作品紹介	8
展覧会回顧	4	ミュージアムショップ通信	8

今月のコレクション展示室 (前田育徳会展示室)

特集

天神画像と文房具

4月1日(日)~4月18日(水) 会期中無休

学問の神様として、また今日、受験の神様としても絶大な信仰をあつめ、人々に親しまれている天神さんは、ご存知のように平安前期を代表する大学者で政治家でもあった菅原道真公そのものです。

天神信仰は、道真の劇的な生涯と、道真の死後広まった道真の怨霊説話などに基ついて神格化がすすみ、道真を祀る天神社が創建されて全国に広まりました。

天神信仰に係る美術品の代表には、前年度末に展示しました「重文 荏柄天神縁起絵巻」などの天神縁起絵巻がまず有名ですが、単独の天神画像も早い時期から描かれたようです。

多くの天神画像では、平安貴族の衣冠束帯姿で表される立・座像があり、その表情には威厳をたたく凛々しいものから、天神雷神説話の歴史を物語るともいわれる憤怒の表情のもの。また配流の途中と思われる悲嘆の表情などのものがみえ、さらに配流の途中の伝承に基づく綱敷天神図がみえるほか、背景には道真になじみの深い梅花を添えたものなどがみえます。

また天神信仰と禅宗との神仏習合を表すと考えられる道服姿の渡唐天神像も特徴的な天神画像の一つです。加賀藩主前田家は、家祖を道真と主張して天神を篤く尊崇するとともに、勧請して領内に多くの天神社を創建しました。

展示のもう一つの柱である文房具は、中国から伝わった各種の文房具をご覧ください。主要な文房具を指す「文房四宝」の一つである硯や筆などのほか、わが国の文房具にはあまり見ない硯屏、多彩な素材を用いた技法を凝らして作られた多種多様な水滴類、小型で愛くるしい動物やユーモラスな姿を表した各種の文鎮類、螺鈿で唐草や草花文をあしらった豪華な印籠や文庫などの多くの文房具がご覧いただけます。

文房具は机上にある書画のための道具ですが、書を尊び、文人を理想のスタイルの一つとした中国では特に発達し、多彩で多様な文房具が作り出されました。

前号のだよりに引き続き、第2展示室で開催中の特集「美術にみる文学の世界」についてご案内しましょう。

日本の美術が絵画や工芸作品の中で題材としてきたものを、大きく「和(倭)」と「漢(唐)」に大別することができます。「和」とは、日本の風土を基調とした自然や物語が題材となったものをいい、「漢」とは、中国の風土を基調としたそれを意味します。この二つは用途によつて使い分けられ、例えば、女性の居室には倭(大和)絵が、男性の居室には漢画が主として描かれたほか、プライベートな空間には和の題材が、政治的な空間には漢の題材が好まれたと考えられています。前号で紹介した「和」の題材の代表格『源氏絵』などは、女性の居室、あるいは私的な空間において用いられました。

一方、「漢」の題材は、政治的な要素を持つものや、君子たる者の姿勢や教訓を題材としたものが多かったため、男性の居室や公の場で用いられました。例えば、中国の知識人の四つの遊び「琴を弾じること、棋を囲むこと、書と画を愛すること」を描いた『琴棋書画図』は、生活に密着した題材としてよく描かれました。水墨のみで描かれたもの、金地に彩色で描かれたもの、双方があり、中国よりむしろ日本で好まれた画題でした。

中国の故事や詩歌を題材とした絵画もあります。「わずかな給与のために、上級の役人に頭を下げるのは真つ平」と、辞表を叩き付けて故郷に帰り、後の隠棲生活の中から多くの詩歌を残した陶淵明の『歸去來の辞』。「かへりなん、いざ」と詠んだこの詩を題材とした絵画もよく見受けられます。

本特集では、これら「漢」を題材とした『琴棋書画図屏風』『歸去來図屏風』(表紙写真)をはじめ、邪気を払う神として中国で伝えられる鍾馗をモチーフとした印籠(写真『時絵鬼に鍾馗図印籠』)なども紹介します。穏やかな柔らかなさが漂う「和」の題材と、雄大さと厳しさに満ちた「漢」の題材の違いもお楽しみください。

(第2展示室)

特集

美術にみる文学の世界

4月1日(日)~4月18日(水) 会期中無休



時絵鬼に鍾馗図印籠



色絵鳳凰図平鉢

今月のコレクション展示室 主な展示作品

4月1日(日)～4月18日(水)

= 国宝 = 重要文化財 = 石川県指定文化財

前田育徳会展示室

天神画像と文房具

胞輪天神画像

繩敷臨水天神画像

七宝硯屏

白玉水滴

第1展示室

色絵雉香炉

色絵雌雉香炉

野々村仁清
野々村仁清

第2展示室

美術にみる文学の世界

琴棋書画図屏風

帰去来図屏風

蒔絵楼閣山水図印籠

蒔絵鬼に鍾馗図印籠

蒔絵高士困碁図硯箱

古九谷

色絵鳳凰図平鉢

色絵布袋図平鉢

色絵百花散双鳥図平鉢

青手樹木図平鉢

青手桜花散文平鉢

狩野友益
山田常嘉

第3～6展示室は、4月1日(日)から4月18日(水)まで第63回現代美術展会場となっております。通常の展示は22日(日)からですが、次号でご案内いたします。

観覧料

一般 350円	個	人
大学生 280円		
高校生以下は 無料		
一般 280円	団体 (20名以上)	
大学生 220円		
高校生以下は 無料		

企画展Topic

生誕100年 高光一也の画業 連載第2回 モダンの煌めき

4月22日～5月20日

昭和20年代末から30年代を通して、多くの画家が抽象画を描きました。ことに昭和32年に来日したフランスの画家で評論家のミシェル・タピエの影響は絶大で、『アンフォルメル(非定形)旋風』を巻き起こすのでした。アンフォルメルは表現主義的で、熱い抽象といった趣があります。以後、抽象画を描かなければ時代に乗り遅れるという思いを若い画家達は持つのです。ちなみに金沢美専を卒業した鴨居玲が制作に悩んだのが、この時期でした。

さて、高光氏の戦後の作風が大きく変化し出すのが昭和27年以降です。この頃の一連の裸婦に見られる太くたくましい線描とペインティングナイフによる肉付けは、それまでの細やかな描写とは大きな隔たりがあります。熱い表現です。ところが、29年の初渡欧を機に、作風はまたまた変化を見せます。色彩は白と黒を中心にし、人物の形は幾何学的に捉えられ、非常にクールなスタイルに移っていきます。この時、師・中村研一の紹介で藤田嗣治の知己を得、近くにアトリエを借りて種々世話にな

るのでした。最晩年の『モンパルナスの藤田さん』はその時の思い出を絵にしたものです。

当時高光氏は40代後半、既に日展では二度特選を得た気鋭の存在です。日本で抽象表現が流行り出すその時期に本場の動向をつぶさに見たわけです。そして、アフリカ彫刻との出会い。以前、当館において氏の膨大なアフリカ彫刻のコレクションを展示したことがあります。これらの彫刻を見ますと、この造形の冒険時、目はヨーロッパだけではなく、アフリカにも向けられていたことがよく分かるのです。その吸収力、咀嚼力は大変なものがあると感じ入ったのでした。

この後の10年間は、人体という具象をいかに抽象的に扱うかという実験を、キャンバス上に展開した時期と呼ぶことができます。高光氏のモダニズムが最も発揮された10年間でした。



裸婦 昭31



モンパルナスの藤田さん 昭59

展覧会回顧

平成18年度開催の展覧会(2)

後期に1階企画展示室で開催された当館主催の特別展は2回でした。

「人間国宝誕生50年 漆芸界の巨匠 人間国宝松田権六の世界」は、生誕110年、没後20年を記念して開催したもので、当館では3回目の松田権六展でした。昭和52年、62年に開催しました2回の展覧会では、松田の作品のみを紹介する展示でしたが、今回は、松田の初期から晩年までの創作の歩みを回顧するとともに、松田の美意識、芸術感の形成過程で重要な役割を果たした古美術品や修復を手がけた文化財、松田の師の作品、さらに松田の薫陶を受けた人間国宝たちの作品を展示し、松田権六の世界を総合的に紹介するものでした。館長の講演会、人間国宝三氏を交えた座談会で、松田の制作態度、人となりを紹介することができ、楽しんでいただけたことと思います。また、本展では、県内の漆器産地はもちろんのこと、高岡、若狭、京都、会津、静岡等全国の漆器組合を通じて、ポスター、ちらしの配布、プロモーションビデオの貸し出し等々、事前の広報活動にも力を入れました。タイミングよく、文化庁が公募した「わたしの旅100選」の大賞が『Japan(漆)を訪ねる旅』であったこともあり、各産地の関係者や愛好家をはじめ全国から多数の入館者がありました。

「-日本の自然・原風景を描く-郷土が生んだ日本画家石川義展」は、平成16年度に当館へ多数の作品をご寄附いただいた石川義氏の回顧展でした。これまで当館では氏の作品は「山里 昭和55年作」一点のみの所蔵であり、また、氏はこれまで京都で制作活動を続けてこられたので、地元の人たちには余りなじみがなかったともい

えます。本展は「深遠なる自然美の世界」、「杉の輪廻」、「生きものたちの饗宴」の三部構成で初期から最近までの代表作を紹介し、氏の画業を総覧する内容でした。四季折々に変化する豊かで魅力あふれる日本の自然、自然と共に生きる人々、作者の人生観を表出する杉の輪廻、失われつつある自然・環境等々を暖かいまなざしで表現する氏の芸術世界を堪能していただけたことと思います。

2階コレクション展示室で開催した特別陳列や特集は32回を数えました。

「日本画家百々俊雅の世界」は、氏の代表作を一堂に展示し、氏の暖かいまなざしや生きる喜びが伝わってくる華やかな現代の女性美の世界を紹介するものでした。

「卒寿記念大場松魚展」は、松田権六展と連動しての開催でした。本展と松田権六展の二会場で展示した氏の制作した10基の棚は圧巻でした。

「尊経閣文庫名品展」は、サブタイトルの経典・仏典の優品と日本の漢詩文のとおり、これまで展示機会の少なかった分野の指定文化財を中心とする内容でした。

「北陸の肖像画」は、「武将像と女性像」、「俳人像など」、「頂相」の三部構成でしたが、上杉謙信並二臣像は大変珍しいものでした。

加賀藩御用絵師梅田家資料も肖像画制作過程が知られる貴重な資料でした。



「松田権六の世界」会場

郷土が生んだ日本画家 石川義展

本年の初春を飾る企画展として、金沢出身の日本画家・石川義氏の展覧会を開催しました。石川氏は昭和5年金沢に生まれ、金沢美術工芸短期大学で日本画を学び、以後京都を拠点に制作活動を行い、現在は日展評議員という重責を担われています。

本展では、昭和27年の日展初入選作から平成13年の日展文部科学大臣賞受賞作まで、日展、グループ展、個展に出品された日本画の代表作にスケッチを加え、計70点を企画展示室3室を使って展示しました。構成は3部からなり、第1部「深遠なる自然美の世界」、第2部「杉の輪廻」、第3部「生きものたちの饗宴」というテーマのもとに作品を配列しました。ただ、1室ずつ1テーマでまとめられれば、より鑑賞しやすかったと思うのですが、それぞれの作品数の割合や表現形態（額装、屏風装）などの違いによって、展示室をまたいでの配置となり、鑑賞していくルートが少しわかりにくかったかもしれません。それでも、石川氏の画業を振り返る時、その三つの視点からとらえ直すことで、より石川芸術の豊かな表現の広

がりをご覧いただけたことと思われま。第1部では、日本各地に取材したスケールの大きな自然美の世界を、第2部では自然の奥にながれている生命のリズムを、そして第3部では自然とともに生きる命の諸相を、温かいまなざしと巧みな技術によってとらえた表現が、鑑賞していただいた方々の印象に残っているのではないのでしょうか。

本展は、平成16年度に石川氏より多数ご寄附いただいた作品を核として形成されたもので、それがなければこうした規模の展覧会は開催できなかったことと思われま。あらためて石川氏にお礼申し上げますとともに、年頭のあわただしい時期にもかかわらず、県内はもとより石川氏が永く暮らした京都をはじめ、県外各地から多くの方に足を運んでいただき、深謝申し上げます次第です。



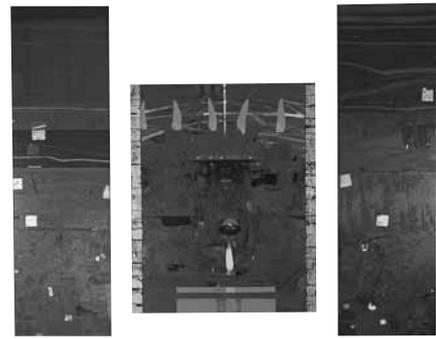
平成18年度 新収蔵品一覧

平成18年度の新収蔵品は、寄贈48点、購入6点、計54点となりました。

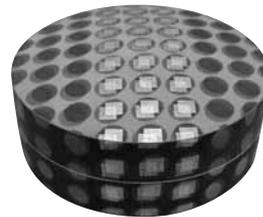
ご寄付を賜りました各位に対し、改めて感謝の意を表します。また、今後とも皆様のより一層のご協力をお願いいたします。

平成19年3月31日現在の収蔵品総数は2,938点です。

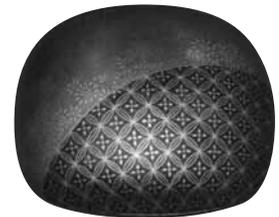
区分	作品名	作者名	購入／寄附
陶磁	金銀彩陶管	米山 央	購入
陶磁	青釉華線文鉢	宮西 篤士	購入
陶磁	遊雀紋	柴田 博	購入
陶磁	釉裏金彩更紗文壺	吉田 美統	吉田美統氏寄附
漆工	化石譚	高橋 節郎	村田良子氏寄附
漆工	寂夜	佐治 賢使	村田良子氏寄附
漆工	彫漆鉄線茶器	音丸 耕堂	村田良子氏寄附
漆工	秋草蒔絵小箆笥	中野 孝一	村田良子氏寄附
漆工	千鳥蒔絵棗	松田 権六	林勇二郎氏寄附
漆工	熊谷草蒔絵飾棚	二木 成抱	林勇二郎氏寄附
漆工	乾漆盤「雲」	塩多慶四郎	塩多しげ子氏寄附
漆工	蒔絵早春篋図箱	小柳 種園	小柳種園氏寄附
漆工	老松蒔絵棗	松田 権六	吉本正夫氏寄附
漆工	千鳥蒔絵香合	松田 権六	吉本正夫氏寄附
染織	訪問着「白百合」	窪田 裕兆	購入
染織	訪問着「薫風」	辻 恵子	購入
染織	友禅訪問着「夕風」	坂井 教人	全国石川県人会連合会寄附
染織	友禅訪問着「萌春」	坂井 教人	全国石川県人会連合会寄附
金工	臙銀鳳凰耳壺	香取 正彦	村田良子氏寄附
金工	青銅壺	斉藤 明	村田良子氏寄附
金工	臙銀斜交細文壺	斉藤 明	村田良子氏寄附
金工	双魚	高橋 介州	村田良子氏寄附
金工	絹の道伏香炉	高橋 介州	村田良子氏寄附
金工	三友文飾壺	高橋 介州	村田良子氏寄附
截金	截金彩色油色〔花の合子〕	西出 大三	購入
日本画	釈迦苦行図	太島 寿喜	太島寿喜氏寄附
油彩画	ファンシフルカレンダー	山田 勝明	山田勝明氏寄附
油彩画	大地の塔	山田 勝明	山田勝明氏寄附
油彩画	インドの女・生シリーズ	林 清納	服部敏治氏寄附
油彩画	コレクション 5人の花嫁	大場 吉美	大場吉美氏寄附
油彩画	コレクション ふたりのつむじ	大場 吉美	大場吉美氏寄附
油彩画	雲をたべた男	大場 吉美	大場吉美氏寄附
油彩画	土堀のある街	判 三教	判 三教氏寄附
油彩画	待春	判 三教	判 三教氏寄附
油彩画	濤	判 三教	判 三教氏寄附
油彩画	潮騒 '05	判 三教	判 三教氏寄附
彫刻	弥勒菩薩立像	澤田 政廣	村田良子氏寄附
彫刻	慈母観音像	澤田 政廣	村田良子氏寄附
彫刻	笛人	澤田 政廣	村田良子氏寄附
彫刻	風神雷神	大内 青圃	村田良子氏寄附
彫刻	聖牛	大内 青圃	村田良子氏寄附
彫刻	歌郷	尾形喜代治	村田良子氏寄附
彫刻	猩々	晝間 弘	村田良子氏寄附
彫刻	蘭陵王	森野 圓象	村田良子氏寄附
彫刻	道化師	圓鏝 勝三	村田良子氏寄附
彫刻	黒豹	横山 豊介	村田良子氏寄附
彫刻	牛	西田 一成	村田良子氏寄附
彫刻	達磨	中村 博直	村田良子氏寄附
彫刻	咆哮	進藤 武松	村田良子氏寄附
彫刻	少年	岩山 豊郁	岩山伸子氏寄附
彫刻	優子さん	岩山 豊郁	岩山伸子氏寄附
素描類	想望	木下 晋	木下 晋氏寄附
書	六勝屏風	吉田 北辰	吉田登美子氏寄附
書	高山右近自筆書状 休庵宛	高山 右近	木嶋節子氏寄附



インドの女・生シリーズ 林 清納



金銀彩陶管 米山 央



〔花の合子〕 西出 大三



乾漆盤「雲」 塩多慶四郎



臙銀鳳凰耳壺 香取 正彦



友禅訪問着「夕風」 坂井教人



慈母観音像 澤田 政廣



雲をたべた男 大場吉美



高山右近自筆書状

| 映 像 | ギ ャ ラ リ ー |

4月・5月の上映予定から紹介します

今回上映予定の映画のうち、工芸技術関係のものでは、民芸陶器の人間国宝・島岡達三（4月29日）と浜田庄司（5月20日）のわざを紹介したものをご覧ください。島岡は組紐を器面に転がして文様を刻み、そこに化粧土を埋める独自の縄文象嵌技法を確立しました。また浜田は、器の成形や意匠表現に素朴で豪快な中にも芸術味豊かな感性を生かした、民芸陶器の巨匠として知られています。

このほか、「利休の茶」（5月27日）では、茶の湯の大成者として知られる千利休の侘び茶の世界を、現在残

されているゆかりの茶室や茶道具、また絵画や墨蹟など、国宝・重要文化財を含む貴重な資料に基づいて紹介しています。

一方ビデオは、今年度「作家シリーズ 創造の原点」を取り上げます。このシリーズは、溢れるばかりの美術情報を整理して、効果的に鑑賞眼を鍛えることを目的に、従来の作家の枠組みや評価観にとらわれず作家を組み合わせ、比較鑑賞することによって美術への理解を深めようとするものです。また、できるだけ作家自身の語りや制作の現場、そして下絵から完成作への流れなど、創造のプロセスを解き明かす映像構成を心がけたといえます。異色の作家の対比が生み出す新鮮な美の魅力をお楽しみ下さい。

企画展示室

第63回現代美術展

4月1日(日)～18日(水) (第3～9展示室)

部門 洋画・彫刻・工芸

◇入場料 一般 1000円(800円)

大高生 600円(400円)

中小生 500円(300円)

()内は団体料金

当館友の会会員は、会員証提示に

より団体料金になります。

◇連絡先 金沢市香林坊2-5-1

北國新聞社事業局内

財団法人石川県美術文化協会

「第63回現代美術展」事務局

TEL 076-260-3581

日本画、書、写真は、21世紀美術館で展示いたします。

第4回
美術館バスツアーのお知らせ

2004年から始まった春の美術館バスツアーは、今年で4回目を迎えます。今回は羽咋市の文化財を見学するコースを計画しています。

現在、下記の予定で準備を進めておりますが見学コースや日程、募集要項等の詳細は、来月号に掲載しますので、しばらくお待ち下さい。

日 程 6月10日(日)

集合・解散 JR金沢駅西口バスターミナル

見学先 石川県羽咋市

見学地 妙成寺、永光寺、正覚院、
豊財院ほか

募集定員 45人

申込方法 往復はがき

4月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
4/15(日)	ビデオ鑑賞会	作家シリーズ1 限りなき挑戦 ピカソルオナルド・ダ・ピンチ (30分) 作家シリーズ2 水のムーブマン ターナー/葛飾北斎 (30分)	ホール
4/22(日)	講演会	師 高光一也の思い出 講師：藤森兼明氏(洋画家)	ホール
4/28(土)	ギャラリートーク	高光一也とエコール・ド・金沢 (二木伸一郎学芸専門員)	展示室
4/29(日)	月例映画会	民芸陶器(縄文象嵌) 島岡達三のわざ (37分) ここに画家ファン・アイクありき 北方ルネサンスの誕生 (23分)	ホール

休館にともなう 友の会からのお知らせ

このたびは友の会へご入会いただき、まことにありがとうございます。美術館リニューアルに伴い、例年とは若干異なる部分がありますので重ねてご案内いたします。

有効期限について

今回の募集に限り、平成19年4月1日から21年3月末日までの2年間となっています。(リニューアル工事に伴う19年9月3日からの1年間の休館を含みます。)今回お渡しする会員証も、21年3月末日まで有効となりますのでお気をつけください。

美術館だよりの発行

美術館だよりは休館中も毎月発行し、21年3月号まで皆様に送付されます。(内容は8ページ立てから4ページ立てになります。ご了承下さい。)

その他

特典に関しては例年と同様になっております。当館以外に

- 石川県立歴史博物館、
- 石川県七尾美術館、
- 石川県輪島漆芸美術館、
- 石川県九谷焼美術館、
- 石川県能登島ガラス美術館、
- 金沢21世紀美術館

の各館が主催する展覧会および、常設展でも会員ご本人様に限り、割引の適用があります。その他詳細に関しましては本誌280号に記載されていますので、ご覧ください。

お問い合わせは普及課友の会係まで

TEL 076-231-7580

ミュージアムレポート

キッズ☆プログラム 鑑賞講座 「明治の工芸を鑑賞しよう」

2月3日(土)

小学生を対象にコレクション展示室を使用して、鑑賞講座を開講しておりますが、今年度最後の講座は「明治の工芸を鑑賞しよう」です。

今回は作品の一部分を探してもらったクイズからはじめました。細かな模様ばかり10点ほど用意したのですが、くじ引きで自分の担当を決め、作品を探し当てたあと、それぞれに引き当てた作品について、みて思ったことや解ったことを話してもらいました。細かな模様の作品が多かったのですが、展示室のはじめから細かにみてまわった人や、与えられた一部分から、まずこの作品は何で出来ているのか材質を考え、それから自分の引いた作品をみつけていった人、さまざまでした。「外国の家にあっているような気がする」「外国で紹介するならこんな模様がいいのかな」というような感想が出ました。



次年度もキッズ 鑑賞講座を予定しております。私たちとたくさんの美術に親しみましょう。



年に一度の能面と能装束の展示の際には、もう「お馴染み」ともなったギャラリートークです。美術講座も含めて、もう何度も私の話を聞いてくださっている方には「またか」とならないよう、とはいえ初めて聞いてくださる方にも「わかりやすく」を心がけ、約1時間展示室をご案内しました。「能装束の重さは?」「背中を向けて展示をするのはなぜ?」などといった、毎回必ず出る疑問点には予め触れながらご説明したのですが、「能装束を『1リョウ、2リョウ』と数えていたようですが、どんな字を書くのですか?1枚や1着じゃダメなのですか?」という点には触れずに終わってしまいました。(今回もトークの後に質問をいただきました・・・しまった!これも必ず聞かれるのです。)字は「領」と書き、装束や甲冑を数える場合に用います。「着」も正しい数え方で、「枚」も決して誤りではありませんが、領は首や襟を意味し、装束はこうした部分を重ねて畳むことから、装束を数える単位として用いられます。ちなみに半切・大口などの袴は

「腰」で数えます。

**ギャラリートーク
「能面と能装束」**

2月10日(土)

企画展紹介

「生誕100年 高光一也の画業—モダンの煌めき—」



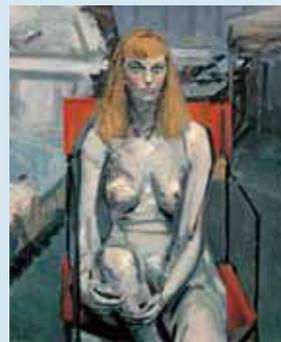
画室のテリヤ 1931



勤労出動 1944



立秋 1949 東京国立近代美術館



赤い椅子の裸婦 1955



浜の女 1961 金沢都ホテル



ヴァイオリンを持つ 1965



緑の服 1970 日本芸術院



菩提樹の下で 1976 北陸放送

ミュージアムショップ通信

今年の冬は例年になく、麗らかな日が続きました。兼六園の雪つりも、活躍せずに終わったようです。こうなると春のありがたさも、ちょっと薄れるような気がします。

さて、ショップに新しい商品が並びました。昨秋「松田権六の世界展」の折りに販売し、人気を博した筆ペンと一筆箋です。どちらも権六の「流水桜文時給神代櫻棗」をあしらった優雅な趣のあるデザインです。ご要望にお応えし、セットになって帰ってきました。

ちょっとおしゃれな権六の筆ペンと一筆箋を持って、一足早く桜を愛でに、兼六園まで出かけてはいかがでしょう。



筆ペンと一筆箋のセット 800円



流水桜文時給神代櫻棗
松田権六

次回の当館展覧会

4月22日(日)～5月20日(日)

企画展示室	企画展 生誕100年 高光一也の画業 - モダンの煌めき -
前田育徳会 尊経閣文庫 展示室	特別公開 重要文化財 「百工比照」
第2展示室	古九谷・再興九谷
第3展示室	高光一也とエコール・ド・金沢
第4展示室	美の至宝 - 芸術院会員名品展

休館日：4月19日(木)～4月21日(土)

石川県立美術館だより 第282号

2007年4月1日発行

〒920-0963 金沢市出羽町2番1号

TEL 076 (231) 7580 FAX 076 (224) 9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>